

コーナー展  
Corner exhibition

# 荒ぶる 祈り

蘇民祭とその信仰

2021.1.23(土) ~ 3.7(日)

会場 / えさし郷土文化館 センター棟 (常設展示ホール)

発行日：2021年1月23日  
発行：えさし郷土文化館

## 蘇民祭と胆江地方

蘇民祭は岩手県内を中心に伝わる裸詣の一つで、蘇民将来という人物が牛頭天王（スサノオノミコト）から厄除けの加護を受ける説話を由来としています。祭りの内容は仏教の「悔過会（修正会・修二会）」が大衆化したものと考えられています。

黒石寺蘇民祭は県内に分布する同祭の最古例といわれ、小間木と呼ばれる木製の護符を詰めた「蘇民袋」を裸男たちが奪い合う奇祭として知られています。また、「歳戸木」と呼ばれる井桁積みにした木を登る「火焚き登り（柴燈木登り）」は、各地の蘇民祭の中でも伊手熊野神社が最大の火勢によって行われます。



黒石寺（奥州市水沢）

伊手熊野神社（奥州市江刺）

なお、初春に行われる護符争奪や蘇民将来にちなんだ札類を頒布する例は全国的にみられますが、本来、こうした「悔過会」に参加することができるのは、精進潔斎した行者のみとされ、今日、その伝統を厳格に維持しているのは、黒石寺と「お水取り」の行事が残る奈良の東大寺だけといわれています。

鎮守府八幡宮の加勢蘇民祭は争奪戦を伴わない蘇民祭で、宮司の唱える神歌と合図によって参拝者が足踏みや手ばたきとともに鬨の声を上げて厄災を祓う神事です。



鎮守府八幡宮（奥州市水沢）

永岡蘇民祭（金ケ崎）

その由来は嘉祥3年（850）、鎮守府を訪れた慈覚大師円仁が、管内の領民が疫病に苦しんでいることを知り、八幡宮心経会に疫病除けの護符を捧げ、八幡大神に祈ったことが端緒とされ、この時の護符が「そみんぼう」と伝えられています。また、「そみんぼう」は大師が大病を患った際、天より授かり病患を絶ったとされる薬神（疫神）に由来し、後にこの薬神を牛頭天王としたことで、蘇民将来の故事によって「そみんぼう（蘇民棒）」と称されるようになったといえます。なお、心経会は『般若心経』を説読する法会で、奈良時代から主に宮中や諸大寺で営まれ、護国の法要として重視されました。

金ケ崎永岡蘇民祭は昭和63年（1988）に永岡地域で記録的な豪雨災害が発生したのを受け、その復興に位置づけられて翌年から開催が始まりました。下帯姿の男衆は観衆から水を浴びせられながら地域内を練り歩き、蘇民袋争奪戦を繰り広げます。

## 蘇民祭の起源

蘇民祭が開催される各地の寺社では「蘇民将来」「蘇民将来子孫之門」などと書いた木札や紙札、六角柱のヌルデ（カツノキ）を疫病除けとして分かち与え、それを門戸に貼ったり、肌守りにすると災厄から逃れられるとされています。六角柱の小間木が入った蘇民袋を群衆が争奪するところに蘇民祭の特徴がありますが、実際は火焚き登り、鬼子登りなどの諸行事によって構成され、争奪戦は祭り終盤の山場となっています。



蘇民袋争奪戦（伊手熊野神社）

岩手の蘇民祭の中で、その開創縁起が伝えられているものについてみると、花巻石鳥谷の光勝寺は建久2年（1191）、元旦から7日まで国家安全・五穀豊穰・病魔退散・牛馬安全を往時の住職が秘法を修し、満願日には多数の参詣者が早朝より五大堂を詣で、大声を上げながらヌルデの棒で堂を叩いたと伝えています。こうした堂叩きの行事に続いて、護摩法要に加持した護摩餅を参詣者に与えたところ、年を経るにしたがって争奪の度を高めてきたので、餅を参詣の群衆に投下するようになったといえます。明治27年（1894）からは餅に代えて365枚の板札に五大尊の種子と駒形の絵を記したものを麻袋（蘇民袋）に入れて群衆に争奪させることとし、それが今日まで続いています。

一関大東の興田神社では、疫病の流行を鎮防するため、延元3年（1338）、牛玉宝印を子どもの額に御判として捺して無病息災を念じ、家族は白紙に捺印したものを持ち帰り、身体を撫でて無病息災を祈ったと伝えられます。江刺の伊手熊野神社は400年以上前に、地域が大凶作となり、原因不明の疫病や火災も相次いだことから、黒石寺より伝承を受け、蘇民祭を始めたといわれます。花巻矢沢の胡四王神社は、原因不明の病気が流行したことから、病疫退散、家内安隠、五穀豊穰、村内安全を祈願して慶應元年（1865）から行われたといえます。鎮守八幡宮は、胆沢城を訪れた慈覚大師が疫病に苦しんでいる領民を救うべく、八幡宮

心経会に疫病除けの護符を捧げ、八幡大神に祈ったことが端緒とされます。

このように、興田神社、伊手熊野神社、胡四王神社、鎮守府八幡宮では疫病を鎮め、防除する目的で蘇民祭を創始したことが伝えられています。

蘇民将来信仰の起源は奈良時代の『備後国風土記』にみられる説話によるもので、その昔、北海に坐す武塔神が旅の途中で、将来兄弟の家に立ち寄り宿を乞うたところ、裕福な弟、巨旦将来は断り、貧しい兄、蘇民将来は粗末ながらももてなしました。この蘇民のまごころを喜び、後に再訪した武塔神は自分がスサノオノミコトであることを告げ、蘇民の家族に茅の輪を腰に付けさせました。これで一家は疫病を免れ無事に過ごしたといえます。

この神話は神楽の演目にもなっており、特に山伏系の神楽では「天王舞」として演じられています。また、蘇民将来の護符では長岡京跡から出土した「蘇民将来之子孫者」と記された8世紀の木簡がその最古例です。

京都祇園の八坂神社に代表されるように、「蘇民将来」の護符を出す寺社は全国的にみられます。また、「夏越の祓」などの行事に使用される「茅の輪」は蘇民将来の象徴でもあります。行疫神であるスサノオは蘇民の一族・子孫には疫病を与えないと誓っているのので、蘇民将来符はその子孫であることを傍証するためのもです。なお、スサノオは神仏習合によって牛頭天王とも呼ばれ、その本地仏（仏である本来の姿）は薬師如来とされています。



蘇民将来碑（米里中沢麓山神社）  
寛政10年（1782）

## 蘇民祭の行事

蘇民祭の行事は、地域によって差違はありますが、裸参り、火焚き登り、堂叩き、別当登り、鬼子登り、蘇民袋争奪といった内容は概ね共通しています。また、祈祷所までの移動は登行列によって行われる場合も多くみられます。光勝寺では本堂から五大堂まで「オヤマノボリ」を行います。黒石寺では庫裏から薬師堂までを火焚き登り、別当登り、鬼子登り、袋登りなどの行列を出します。伊手熊野神社も黒石寺と同様ですが、行列は別当宅を始点としています。

堂叩きは光勝寺、伊手熊野神社、黒石寺、鎮守府八幡宮、一関藤沢の長徳寺で見られます。光勝寺では行満願の日に参詣者が集まり大声を出し、堂を叩き、その音が聞こえた所までは家内安全、魔事なしといわれました。伊手熊野神社、黒石寺では火焚き登りの炎の中から燃えさしの棒を取り出して御堂の床、板壁、梁を渾身の力で叩きます。これを黒石寺では「キヨメ（清め）」といい、熊野神社では「ハラエ（祓え）」といいます。鎮守府八幡宮の加勢蘇民祭は唯一、争奪戦をとこなわない祭りですが、宮司の唱える神歌と合図によって、参詣者全員が足踏みや手ばたきとともに大声で鬨の声を上げます。北上川の対岸では、この音や声が聞こえる年は作柄がいいと伝えてきました。



堂叩き（伊手熊野神社）

なお、堂叩き行事は蘇民祭のほか、水沢羽田の出羽神社で行われる小槌祭にもみられ、同社では「吐普加美衣身多米」の祝詞や「神璽」「致誠」の文字を記したヌルデ（カツノキ）の小槌で社殿の床などを軽快に叩いて、邪鬼祓いが祈願されます。

このように打叩音を発することで厄災を祓い清めるという観念は、仏教の悔過会を起源としながら、寺社や民間信仰の諸行事に継承されています。



小槌祭（水沢羽田出羽神社）



「小槌祭」に使用する小槌

鬼子は7歳になる男の子が伊手熊野神社、黒石寺で続けられています。長徳寺と平泉の毛越寺では4月に小学校に入学する児童を対象としています。

麻の着物を着た鬼子は鬼面を逆に背負い、木斧・木槌を持ち、父親または祭りの役員に背負われて「鬼子登り」に出て、松明や柴燈木の火を越えて祈祷を受けます。黒石寺の鬼子は内陣から外陣に出る際に、白紙で切った足形・手形を着けます。

鬼子に出た子は丈夫に育つともいわれています。



鬼子登り（伊手熊野神社）

牛玉宝印ごおうほういんは黒石寺、鎮守府八幡宮で見られますが、参詣者に頒布されるのは八幡宮のみです。黒石寺では荘厳具しょうごんぐとして牛玉札を用いるほか、祭りが終わると長さ1m余の「ゴハンザオ（御判棹）」の先端に貼られます。棹の材質はヌルデで、月の数（12本）を水引で束ねています。この牛玉札を固めた部分を身体にあてると、その箇所へいばの傷病が平癒するといわれています。

このように、牛玉札を聖なる呪具として転用する事例は黒石寺蘇民祭のみにみられます。



お供え束  
黒石寺



牛玉束  
黒石寺



ゴハンザオ（御判棹）  
黒石寺



黒石寺宝印（牛玉宝印）  
黒石寺



八幡宮宝印（牛玉宝印）  
鎮守府八幡宮



火焚き登り（伊手熊野神社）

「歳戸木さいとぎ」と呼ばれる井桁積みにされた木を登る「火焚き登り（柴燈木登り）」は、永岡、鎮守府八幡宮、花巻大迫の早池峰神社を除いた全てで見られます。

伊手熊野神社の火焚き登りは県内でも最大の火勢のなかで行われ、歳戸木は落雷を受けて神仏が宿った霊木れいぼくを使用するという伝えがあります。また、光勝寺では境内から採った笹葉を柴燈木の御神火であぶって持ち帰り、家畜に食べさせると家畜は一年間、健康でいられるといわれます。



蘇民袋（伊手熊野神社）



蘇民袋争奪戦（伊手熊野神社）

蘇民袋争奪戦は、無病息災を願う薬師信仰がもとになっていますが、袋を引き合う行為は五穀豊穡の祈願や作占さくらなの要素も含まれており、各寺社とも争奪戦の終盤には、山門や鳥居の外に出て決着をつけます。平泉の達谷窟西光寺では、護摩たつこくを焚いて焦がした一升餅を毘沙門堂から投げ落とし、東西に分かれた参詣者が奪い合い、勝敗や餅の焦げ方でその年の作柄が占われるといわれます。金ヶ崎の永岡熊野神社蘇民祭（廃絶）は、胆沢川の南と北から来た者に分かれて争奪戦を行い、袋を取った方の地域は、その年の作柄が良いとされました。そのため蘇民祭は、初めは徐疫祭じよえきまつりだったものが変化して豊作祈願祭に転じたものだとも考えられています。

## 【岩手県内で現在開催されている蘇民祭】

- |              |         |   |
|--------------|---------|---|
| ① 胡四王神社蘇民祭   | (花巻)    | (新暦) 正月2日 午前9時～12時                          |
| ② 達谷窟西光寺鬼儼會  | (平泉)    | (新暦) 正月2日 午後10時～ ※2017年より再開                 |
| ③ 興田神社蘇民祭    | (一関大東)  | (新暦) 正月第2日曜日 午前3時～8時                        |
| ④ 毛越寺二十日夜祭   | (平泉)    | (新暦) 正月20日                                  |
| ⑤ 伊手熊野神社蘇民祭  | (奥州江刺)  | (新暦) 正月第3土曜日～日曜日                            |
| ⑥ おらが村の永岡蘇民祭 | (金ヶ崎)   | (新暦) 正月第4 (または第5) 土曜日 (前夜祭)～日曜日 (本祭)        |
| ⑦ 光勝寺五大尊蘇民祭  | (花巻石鳥谷) | (旧暦) 正月6日 午後8時～星祭護摩法要・裸参り<br>正月7日 午前10時～蘇民祭 |
| ⑧ 黒石寺蘇民祭     | (奥州水沢)  | (旧暦) 正月7日夜～8日朝                              |
| ⑨ 鎮守府八幡宮加勢祭  | (奥州水沢)  | (旧暦) 正月8日 午前10時～12時                         |
| ⑩ 長徳寺蘇民祭     | (一関藤沢)  | (新暦) 3月第1日曜日                                |
| ⑪ 早池峯神社蘇民祭   | (花巻大迫)  | (新暦) 3月17日 午前10時～12時                        |



## 【廃絶・中止の蘇民祭】

- |           |        |           |        |           |          |           |          |          |           |           |          |           |          |           |          |           |          |          |          |           |          |        |          |           |        |        |                       |           |         |        |   |           |        |          |         |           |         |
|-----------|--------|-----------|--------|-----------|----------|-----------|----------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|----------|----------|-----------|----------|--------|----------|-----------|--------|--------|-----------------------|-----------|---------|--------|---|-----------|--------|----------|---------|-----------|---------|
| ⑫ 伊吹神社蘇民祭 | (一関川崎) | ⑬ 菅原神社蘇民祭 | (一関舞川) | ⑭ 早間神社蘇民祭 | (一関東山松川) | ⑮ 熊野神社蘇民祭 | (一関東山松川) | ⑯ 天王社蘇民祭 | (一関東山田河津) | ⑰ 新山神社蘇民祭 | (一関東山長坂) | ⑱ 馬頭観音蘇民祭 | (一関大東落合) | ⑲ 八幡神社蘇民祭 | (一関大東洪民) | ⑳ 八幡神社蘇民祭 | (一関大東丑石) | ㉑ 観福寺蘇民祭 | (一関大東猿沢) | ㉒ 田の神様蘇民祭 | (一関大東遅沢) | ㉓ 八雲神社 | (奥州前沢白山) | ㉔ 三峯神社蘇民祭 | (奥州衣川) | ㉕ 白鬚神社 | (奥州胆沢南都田)<br>※ 1 証跡不明 | ㉖ 熊野神社蘇民祭 | (金ヶ崎永岡) | ㉗ 麓山神社 | (奥州江刺米里)<br>※ 2 寛政10年(1782)銘の「蘇民将来碑」があるが、<br>その他は証跡不明 | ㉘ 浅間神社蘇民祭 | (北上口内) | ㉙ 常光寺蘇民祭 | (花巻二枚橋) | ㉚ 羽山神社蘇民祭 | (花巻湯本台) |
|-----------|--------|-----------|--------|-----------|----------|-----------|----------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|----------|----------|-----------|----------|--------|----------|-----------|--------|--------|-----------------------|-----------|---------|--------|---|-----------|--------|----------|---------|-----------|---------|

※ 1 末武保政著『黒石寺蘇民祭』(1976年 文化総合出版)

※ 2 中目誠著『古代における胆沢開拓考』(1997年 胆沢町史刊行会)に人首川で水垢離を取り、境内で蘇民祭が行われたとある

## 信仰の淵源

正月や初春に寺院で行われる修正会（修正月会）、修二会（修二月会）と呼ばれる行事があります。これは仏や神を迎えて、前年の罪業を懺悔し、穢れを祓い、新年の災いを除き、天下泰平、風雨順時、五穀成就、万民快樂を祈る法会で「悔過会」と総称されています。正月や2月の上旬から中旬にかけて行われ、その起源は奈良時代にまで遡ります。

天下泰平、風雨順時、五穀成就、万民快樂を祈る悔過は「吉祥悔過」といわれ、『金光明最勝王経』に基づいて行われる招福除災の現世利益的な目的が強いものです。この法会は仏教伝来以前の諸神信仰の下で行われる内容がみられ、仏教行事というよりも民俗的要素が濃厚で、ダダオシ（長谷寺）、どやどや（四天王寺）、会陽（西大寺）、お水取り（東大寺）などの呼称が一般に定着しています。

これらの行事に共通するのが、牛玉宝印、堂叩き、鬼、炎、乱声、精進潔斎、餅、柴燈護摩、裸参りなどで、荒祭りの性質があります。

末武保政氏は、著書『黒石寺蘇民祭』の中で、蘇民祭の成立時期について「おそくとも奥六郡が政治的・

文化的に、一つの国家的な安定をみせた11世紀の安倍氏時代を下ることをあるまい」と述べています。それは蘇民祭を支えている親方衆（世話人）の出所分布が胆沢・江刺・和賀・稗貫・紫波・岩手のいわゆる「奥六郡」であるとして、その長であった安倍氏の時代に蘇民祭は定着したのだと推測しています。また、同氏は『備後国風土記』にみられる蘇民将来の説話も胆沢城の時代に既にこの地に招来されたと論じています。

いずれにせよ、貞観17年(875)、鎮守府胆沢城で『最勝王経』を正月7日に修することが朝廷より許され、官費が下されている記録があるので、9世紀後半には鎮守府において修正会として「吉祥悔過」が修されていたことは確かです。

仏教の悔過会に始まった祭りは、蘇民将来信仰や山岳信仰などの素因を習合させ、地域の願望にも呼応しながら発展し、今日へと至りました。

全身に浄火を浴びて生まれ変わる擬死再生の思想、神霊の依坐となる鬼子、蘇民袋に託された年占、厄災消除の護摩供の観念など、それらを内包した蘇民祭は儀礼化された宗教行事よりも、むしろ古代の素朴な力強さを秘めた信仰の淵源そのものなのかもしれません。



蘇民袋

伊手熊野神社（奥州市江刺）  
えさし郷土文化館蔵

福物の小間木が詰め込まれた麻袋。争奪戦では小刀で切り裂き、小間木を撒き散らしながら、激しく奪い合います。最終的に袋の「首」にいちばん近い部分を持っていた者がその年の取主となります。



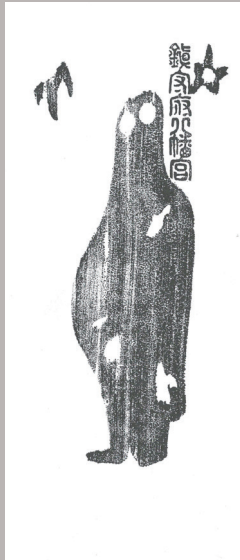
御札・角灯・手木・小間木・袋片  
黒石寺（奥州市水沢）  
個人蔵

### ◆角灯

「四角」とも呼ばれる燈明。伊手熊野神社蘇民祭では別当宅から供物や祭具一式を社殿に運ぶ儀式を「四角登り（夏祭り）」と称しています。

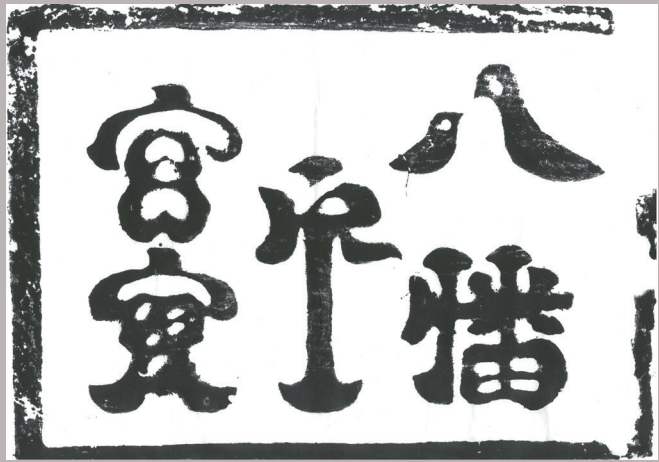
### ◆手木

ヌルデ（カツノキ）を素材とした誠棒。登行列の際には腰を屈めながら手木を地面に這わせて通路を清めます。



護符（そみんぼう）  
鎮守府八幡宮（奥州市水沢）  
個人蔵

「そみんぼう」と呼ばれる絵札で氏子や加勢蘇民祭の参詣者に配られます。図像は慈覚大師の病を平癒させた甜瓜の形に葉と花を添えた薬神の姿とされ、安永5年（1776）の『風土記御用書出』には、「そみんぼう」という疫病除けの守札を持ち帰り、門戸に貼り置くという記述がみられます。



八幡宮宝印（牛玉宝印）  
鎮守府八幡宮（奥州市水沢）  
個人蔵

八幡宮の神使である鳩の意匠による「八」の字が特徴的な牛玉宝印で、嵯峨天皇による宸筆と伝えられています。加勢蘇民祭でのみ授与されます。



祈祷札（取主木札）  
光勝寺五大堂（花巻市石鳥谷）  
個人蔵

光勝寺五大尊蘇民祭で蘇民袋争奪戦の取主に授与される祈祷札。



蘇民将来符（八角木守）  
名取道祖神社（名取市）  
個人蔵

各面を赤・青と交互に彩色した八角柱の根付型の護符で、元日のみに頒布されます。「ソミンショウライ」の文字が上部に各面1字ずつ左回りに書かれています。



蘇民将来符（八角木守）  
陸奥国分寺薬師堂（仙台市若林区）  
個人蔵

八角柱で房のついた根付型の護符。各面を赤・青・黄・黒交互に彩色して頭部に左回りで「ソミンソーライ」と記されています。瘡瘡除けの護符として信仰を集めました。



注連縄飾り  
盛岡八幡宮（盛岡市）  
個人蔵

のれん注連の中央に蘇民将来符が付されており、門戸に飾って悪疫退散・厄除開運・家内安全の守護札とします。



厄除粽  
八坂神社（京都市東山区祇園）  
個人蔵

「祇園祭の粽」と称され、古くから八坂神社の護符として頒布されてきました。特に藁の柄がつけられた粽は長刀鉾（山車）から撒くことから、「長刀鉾の粽」とも呼ばれています。



蘇民将来符（六角木守）  
信濃国分寺八日堂（長野県上田市）  
個人蔵

六角柱のこけし型で、1月7日・8日の八日堂縁日で参詣者に授与されます。この頒布習俗は室町時代より継続しているとされ、国の選択無形民俗文化財に認定されています。

## 【謝意】

本展の開催ならびに本稿の執筆にあたっては、岩城秀弥氏、千葉周秋氏、宮本升平氏から多大なる資料のご提供および種々のご教示・ご助言を賜りました。

記して深く感謝の意を表します。

## 引用・参考文献

- 末武保政『黒石寺蘇民祭』（文化総合出版 1976年）
- 門屋光昭『岩手民間信仰事典』（岩手県立博物館 1991年）
- 宮本升平「蘇民将来符の研究—その形態と分布」（『民具研究』第119号 1999年）
- 岩手の蘇民祭調査会議『岩手の蘇民祭調査報告書』（岩手県教育委員会 2002年）
- えさし郷土文化館『神と仏と人々と—御札など民間信仰を中心に』（えさし郷土文化館 2015年）
- えさし郷土文化館『岩手の牛玉宝印—護る・癒す・誓う』（えさし郷土文化館 2016年）